

留学先国名 : ブラジル

留学先学校名 : University of Campinas

留学期間 : 平成 28 年 7 月 25 日 ~ 平成 29 年 7 月 25 日

飛行機に乗った時から自分の留学生活がスタートしました。30 時間以上のフライトを終え、着いたのは日本の反対側に位置する国ブラジルでした。今まで 1 年も海外にいたことがなく、また英語もあまり通じない国での 1 年間の生活。はじめは友達もできず、公的な手続きで言葉が通じず役所の人にも呆れられたりして家で泣きながら何度も日本に帰りたいと思いました。しかし、留学の最後にはブラジル人や他の留学生たちに、「ポルトガル語があまりにも上手なのでブラジル人かと思った」と言ってもらえました。

私がブラジル文学とポルトガル語の上達のために選んだのは南米で 1 位の総合大学でした。日本の大学と違って相当な大きさと、大学の中には何でもありました。授業が外国人向けのポルトガル語の授業と、聴講で現地の学生が受けるブラジル文学の授業を取っていました。ポルトガル語の授業では様々な国籍の留学生たちとポルトガル語を使ってお互いの国の文化を紹介したりなどしました。授業の終わりにみんなで学食でご飯を食べに行ったり、学期が終わった時にはみんなでそろって近くのバーにも飲みに行きました。授業の半ばで全く日本に興味のなかったコロンビア人から、「今まで全然日本のことを知らなかったけど日本に興味を持った」と言ってもらえ、とてもうれしかったです。彼は今コロンビアで日本語を履修しているそうです。文学の授業は内容が大変難しく、何度も先生に質問をしたり、授業で仲良くなった現地の学生に何度も教えてもらいました。日本ではあまり掘り下げなかった内容についてたくさん学べて自分の理解が深まりました。学んだことを自分の卒業論文に活かしたいと思います。

授業以外では、大学の学生団体に所属しました。外国人留学生とブラジル人学生が交流をしたり、留学生の手続の手伝いをしたりする団体で、外国人として初めて加入しました。最初は意見を求められても人と違う意見を言うことに抵抗があり、何も伝えられませんでした。しかし、ブラジル生活の中でいかに自分の意見を伝えることが大切かを学び、また、自分の意見を周りが受け入れてくれる雰囲気も感じていたので、後半は反対意見などもしっかり伝えられるようになりました。後学期の最初に新しく来たメンバーを迎えるパーティがありました。前学期からすでに学生団体のメンバーだったのでその運営に携わりました。はじめは全く人が集まらずに開催できないんじゃないか、とみんなで言っていました。しかし広報の仕方を変えたり努力をすることによって当日には定員以上の人が集まってくれました。それ以降のイベントでも毎回定員以上の人が集まりました。ほかの留学生とブラジル人とのパイプ役でどちら側にも感謝してもらって、所属して後悔をしたことがありません。

普段の生活では日本人があまりいないところであったのでほとんど関わりがなく、他の留学生たちやブラジル人たちと過ごしていました。ラテンの雰囲気は日本とは全く違いました。人生を楽しむことが 1 番で、多少のことは気にしない性格の人が多かったです。日本にいる時は他人の目を気にするあまり自分のしたいことがあまりできませんでした。しかしこの 1 年の留学で自分のしたいことを明確にし、しっかりと目標立てて手

段を考えて実行できるようになったと思います。

今、私は就職活動を控えています。ブラジル留学中に日本製品のすばらしさを実感し、「日本製品のすばらしさを海外に発信する」ということをコンセプトに就職活動に臨みたいと思います。そのため、海外にも支社があり、商品を置いている日本のメーカー、特に食品業界について就職活動をしています。中でも、和食は世界中の誰もが知っていて、日本とはあまり関わりのない国でも日本食はある、と留学中に気づきました。和食を通してもっと日本に興味を持ってくれる人が増えるといいな、と思っています。

また、日本人が抱くブラジルのイメージは「危険」だと思いますが、それ以上にたくさんいいところがあるのでそれをしっかり伝えていきたいです。インフラなどは確かに新興国でまだまだ未発達なところはあります。しかし、人の温かさはどこの国にも負けないくらいだと思います。ブラジルにはこんな言葉があります。「自分の友達の友達は自動的に自分の友達」。この言葉通り、友達と遊びに行ってもいつも自分の知らない友達の友達がいるのは当たり前。そこで仲良くなったら間の友達抜きで遊びに行くこともあります。また挨拶がしっかりしていて、どんなに大人数いても出会った時も別れの時も必ず一人ひとりしっかり挨拶をしていきます。道を歩いている時やタクシーに乗っている時ですらたくさんのお話があります。留学生だからというわけではなくブラジル人同士でもそう対応していたのでブラジルでは当然のことだと思います。日本では特定の人しか出かけなかったり、つきあいの程度によって挨拶も軽く済ませたりするなど他人との関係が希薄な面があると思います。日本の技術は発達していますが、多くの面では海外の他の国々から学ぶことがたくさんあると感じました。また、私は海外に出たことによって日本をもっと好きになり、日本についてもっと学びたいと思うようになりました。海外について学ぶだけでなく、日本のことも改めて学べると思います。

留學生活では日本とは全く違い、予想もしないことが起こったり、つらいことがたくさんあったりします。でもそこでよくよしていないで、自身ができることから始めると、たくさんことができるようになります。自分が行動するかどうかで結果がかなり変わってくると思うので頑張ってください。また、その結果は必ず自分に返ってきます。海外で長く生活することは多くの人にとってあまりできる体験ではないと思います。日本ではできないことをたくさん経験して、吸収できるものはたくさん吸収してください。応援しています。